
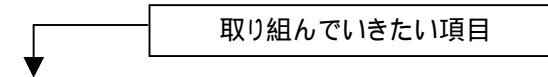


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	意識としては十分に考え実行しているつもりだが理念の中に地域密着の文言がまだ入っていない		地域密着の考えを理念の中に入れていく
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	本人、ご家族の安心(当社理念)、どうすることが本人にとって良いかを日常の中で意識し実践し会議などでも話し合っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会などで話す機会を作っている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所して2年半、近隣に顔見知りの方々も増え挨拶は日常的に行っている。近所の人たちも好意的に声をかけたりしてくれている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の町内会に加入、定期的な廃品回収や夏祭りの行事などに参加している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>当社が平成12年から行ってきたグループホーム事業の経験などを生かした、併設の居宅介護支援事業所やデイサービスとも共同し近隣の方々の相談などを行っている</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前年度の評価指導に関しては、ほぼ全てにおいて改善し、より良いケアにつなげるようにしている</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族などの希望にできる限り答えられるように人員配置や体制などの改善を重ねている(夜間体制、医療連携など)</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険課や福祉事務所などの担当の方とお会いし話すがともに向上に向けての取り組みはまだ行っていない</p>		これから話し合う機会や場面が作れていければ良いと思う
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度の内容などについては話しているが現利用者様の中では制度を活用している方がいないため、詳しい勉強会はまだ行っていない</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待は絶対あってはならないこととスタッフも十分に理解し実践している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、重要事項説明書の説明には十分な時間を設けており話し、一方的な説明だけではなくわからないことがあれば質問もしていただいている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居されている方々にとっては、自ら苦情や不満を表すことが難しい面もあるので日々、ご家族に話しかけ、気持ちを聞き察するように心がけている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>苑便りにて、全体的なことはほぼ伝わっていると思う。お小遣いの収支は個別に報告している。またご家族の来苑時には個別的に詳しいお話をしている</p>		<p>個人の様子、体調、受診結果などを個別に伝えるようにして行きたい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設けそれを明示している。また来苑時こちらからご意見を聞くことも多い。指摘や苦情は全スタッフで話し合い改善していつている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議など公の場だけではなく常にスタッフの希望や要望を聞くよう心がけている。出てきた意見はできることから改善している</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフの充実が必要な時間帯に対し順次配置を手厚くしている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>決まった介護報酬の中では給与による理由の離職は防ぐことが難しい。働きやすい職場環境を作っていけるよう努力をして行きたい</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に決まった計画は立ててはいない。研修の情報は職員に教えるが、職員の自己啓発に委ねている		より一層研修会などへの参加を促す
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県ของกลุ่มホーム協議会に参加し研修会や地域交流会に参加しているがスタッフの不足などにより十分な時間がとれていない		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不満や苦情、悩み事などはできる限り聞くようにしている。また今後は十分な休憩室の場所を確保するなど取り組んでいきたい		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの現場での努力、苦労など今以上に理解して行き、向上心をもって働いていけるように努力して行きたい		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始前にはできるだけ本人の話を聞き、本人の希望などを把握するようにしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望相談、実地調査を通じご家族の話をよく傾聴し安心して頂けるような対応に努める。入居後早い段階までにある程度の信頼関係がもてるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	それぞれのケースにもよるが入所のみではなく他の施設や在宅サービスもあることをお伝えしている		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	体験入居は行っていないが、入居前の見学や併設のデイサービスに少し通ってからの入居もある		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	日々の生活をスタッフと利用者様がゆっくりといっしょに行っていけるよう努力している		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	面会は時間制限などしておらず、24時間可能である。ご家族と二人三脚でケアが行っていけるよう種々の協力体制をお願いしている		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	入居時にできるだけご本人の生活歴などをお聞きし家族関係の把握に努めている。また必要に応じ調整にも関わっている		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	面会、電話、手紙などまた古いお友達の来苑も積極的に支援している		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	スタッフが利用者様同士の間に入って潤滑剤になりコミュニケーションを円滑に行えるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も必要に応じご家族からの相談や連絡をうけている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の希望を聞くようにしている。また本人にとってどうすることがよりよいのか常に考えるようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類で生活歴など一応の把握をするが、引き続き入居後もご家族やご本人から話を聞いている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	様子観察の他、数種の記録書類を通して個人の日々の状態に気をつけている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議などを通して課題を抽出しまたご家族の希望もケアプランに盛り込んでいる		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特変のない場合は3ヶ月ごとの見直しを行っている。期日前であっても状態の変化などで必要があればケアプランは作り直している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェック表、個人生活記録、業務日誌など日々の記録を充実させている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	たとえばADLの低下が著しい時期などは今までホームとして培ってきた経験や知識また医療連携でよりよいケアを行えるよう努力している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんとの関わりや地元保育園の子供たちの来苑を受けたりしている		今まで以上にボランティアさんをはじめ地域の方々との連携を図りたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人、ご家族の希望にもよるが他のサービスが必要なケースには特養などの相談員と連絡、相談などおこなっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を除いては地域包括センターとの協働は充分ではない		より一層の連携をはかっていきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携先の医師の往診が2週間に一度ある。その他希望の医療機関を個人的に往診している利用者様もいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の医師にてかなりの部分まで出来ている。特別な場合のみ専門医の外来受診		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフに看護師がおり健康管理気を遣っている。また医療連携により定期的に看護師の訪問を行う予定である		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院や医師とは連携を密にしている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだターミナルの利用者様はいないが、必要が生じればご家族とともに早期より相談し具体的な方針を話し合っていくつもりである		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療との連携によりターミナルケアへの取り組みが具体化できる。スタッフのスキルアップとともに各所との検討を始める予定である		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時はほとんどが入院か特養入所であるため、十分な話し合いの余地がないのが現状であるが、退所時には、詳しい介護サマリーを渡すようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者様の障害や失敗を重視することがないようにしている。また情報の守秘義務も遵守している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>失語症の利用者様には特に質問の仕方などに注意し、はい、いいえで答えられる短めでわかりやすい質問をしている。内面的なことを話しやすい、家族のような雰囲気の利用者様に寄り添い傾聴する姿勢を日々重視している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望に沿っている。身体的に問題がない利用者様は他のご利用者様と同じような外気浴などではなく短い時間で長い距離を歩くウォーキングなども行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的に苑にて理髪を行っている。本人の希望に沿ってお願いしている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事のたびに利用者様とスタッフで準備、片づけを行っている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、飲み物、お菓子など定期的に購入し好きなききに食べられ、飲めるようにしている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>片マヒで可動域が少しずつ狭まっている利用者様などにも本人の意志を尊重し、状況に対応しながらトイレでの排泄が出来るようにしている</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>特浴を利用する方は、他の利用者様の入浴等もあり回数が週に2回となるが、ゆっくりと時間をかけての入浴で本人は丁度良いと満足している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>自由に居室に戻り昼寝などをしている利用者様は多い。ベットメーカーではリネン類の交換をこまめに行い清潔を保っている</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>障害の度合いを考慮し何が出来るかを考え必要とされていること(役割)を実感して頂くとともにできなかつたことが出来た喜びも感じて頂けるようにしている。 台所での調理、掃除、洗濯等、日常的に行われていることなど</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持については基本的にスタッフが管理している。本人の希望や家族からの意向に添って買い物をしている</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>身体機能の状態によって外気浴、散歩、ウォーキングなどを行っている</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節や時期に対応して外出をしている。初詣、お花見、紅葉見物また外食など。個別に家族と旅行、コンサート、外食をされている方も多い</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や知人との手紙や電話のやり取りをしている利用者様もいる。自分で電話をかけられない人にはスタッフが電話をして相手に出てもらい本人をかわって話をしてもらっている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	土日、祝祭日など家族や知人が来苑されることが多く利用者様も会話を楽しんでいる。利用者様の家族、身内の方も宿泊をすることがある		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の問題点もあるが、スタッフの連携で見守りをするなどで拘束は一切行っていない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけたことはなく時には、利用者様が他の利用者様の見守りの役目をするなどもあり、全体で見守っている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者様への目配りを欠かさず行い、行動を把握している。夜間は定期的に居室内の様子を夜勤者が見守っている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所の電気ポットのお湯を必要とする利用者様には自由に利用できるようにするとともにスタッフがいつでも見守り出来る場所に置くようにしたり一人一人に合わせて対応している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフは利用者様の行動に対して考えられる危険をすべて察知し、対処見守りをするよう心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の講習を終えているスタッフもいるが、定期的な訓練は行っていません。急変時は提携の医師に連絡、必要に応じてすぐに病院受診、または救急車での対応をしている		講習や訓練を行う
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路の把握はしている。また避難の仕方は話しているが全員での訓練はまだ行ってない。地域の人には運営推進会議などで協力をお願いしている		消防などと協働での訓練実施を相談する
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	拘束しないことで起こりえるリスク(転倒など)を家族に説明し理解を得ている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフの間で申し送りが徹底されている。利用者様の体調の変化は看護師に連絡し、また必要があれば提携医師に指示を受けている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自力で服薬できない利用者様への介助を行っている。薬によっては服薬時に摂取していけない食べ物などもあり説明書は確認している。薬の変更があった場合はその情報をスタッフが共有している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態の把握に努め水分摂取を促すとともにおやつに果物、サツマイモなど提供している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者様には、食後の歯磨きを促し、自力で洗浄できない方へは介助している。また週に1度の歯科衛生士の訪問がある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立、食材は専門業者より調達、毎食後の食事摂取量の確認も行っている。水分摂取はいつでも自由に飲めるよう用意し自力で摂取出来ない方へは介助している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出後のうがい手洗いやシーツ、布団の清潔、インフルエンザの予防接種など行っている。また各種感染症への対応の仕方のマニュアルも用意されている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具などの清潔はスタッフが管理し定期的に消毒、清掃など行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を置き、花壇、菜園もある。また車いすでも十分な広さを確保。靴を脱ぎはきしやすいよう台も設置している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには光と風が差し込む設計になっている。カーテンや空調でも調節をおこなっている。また季節にあわせた飾り物やその日のメニュー、勤務スタッフを記入したイーゼルも設置している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル、2カ所のソファ、数カ所のいすなど思い思いに好きな場所へ移動している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自居室は本人とご家族が用意された品で仏壇やなじみのもの、本人の好みに合わせた調度品である。また転倒などにつながる品の移動などにも気を配っている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を行っている。エアコンはスタッフの体感ではなく利用者様の感じる温度で調節している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の配膳などワゴンを使用して手伝うことが出来ている。マヒがある利用者様はトイレなどにも本人に合わせたバーがあるためトイレを使用できている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	半側空間無視の利用者様は食事の際食器の配置に注意をしている。残存機能の活用も含め、各人にわかりやすい対応をしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者様のなかにはベランダを利用して布団干しなど自由に使っている。玄関の花の水やりなど楽しみにしている利用者様もいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに(家族は除く)	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様に安心して過ごして頂ける場を提供できるよう努力しています。生活していく上で基本的なこと「食べて、寝て、排泄して、清潔を保つ」まずこれがきちんと行えなければいけないと考え実践しています。その上で各個人個人が生活の中で役割がもてて、自分自身が必要とされていることを感じられ認知症からくる混乱も最小限に穏やかで気持ちの良い生活がしていけるよう支援しています。